

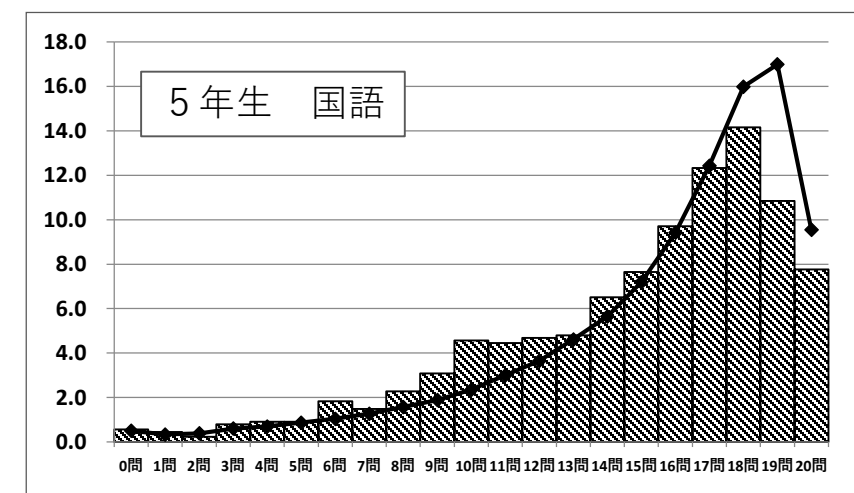
- 1. 調査の目的**
子どもたち一人ひとりが自らの強みを知り、学びの基盤となる言語能力や読解力、情報活用能力等を向上させ、これからの社会を生き抜く力を着実につける。
- 2. 調査の対象**
小学校及び義務教育学校前期課程 第5学年（876人が参加）
第6学年（901人が参加）
- 3. 実施日**
令和5年4月18日
- 4. 調査の内容**
5年生：国語、算数、理科、わくわく問題（教科横断型問題）、アンケート
6年生：理科、わくわく問題（教科横断型問題）、アンケート
- 5. 児童への資料提供「ウォッチシート（個人票）」の記載内容**
 - ・アンケート結果からわかる児童一人ひとりのよいところ
 - ・各教科とわくわく問題の解答状況から見られる、児童一人ひとりのよいところ
 - ・各教科とわくわく問題のすべての問題について、児童一人ひとりの正答状況とそれに合わせたアドバイス

教科に関する結果

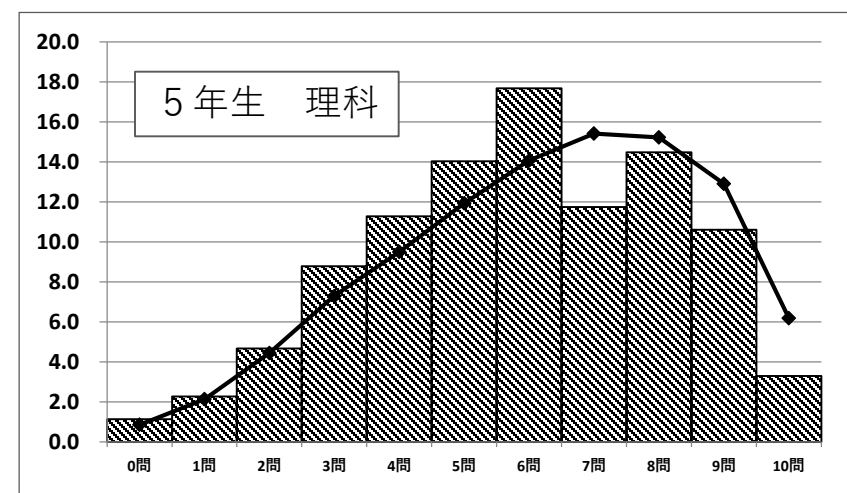
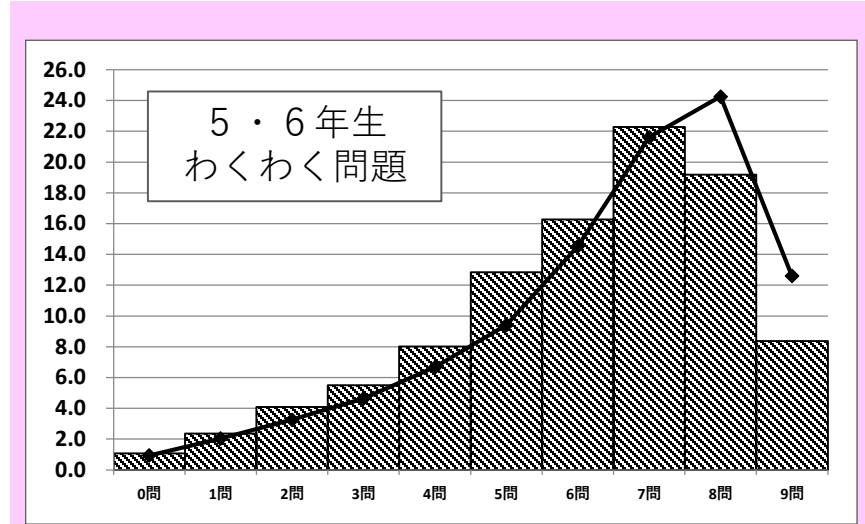
学力が着実に定着している
(大阪府との差は1問以内)

平均正答数		守口市	大阪府
5年生	国語(20問中)	14.8	15.7
	算数(7問中)	2.4	2.6
	理科(10問中)	5.9	6.2
6年生	理科(10問中)	6.8	7.3
5・6年生	わくわく問題(9問中)	6.1	6.4

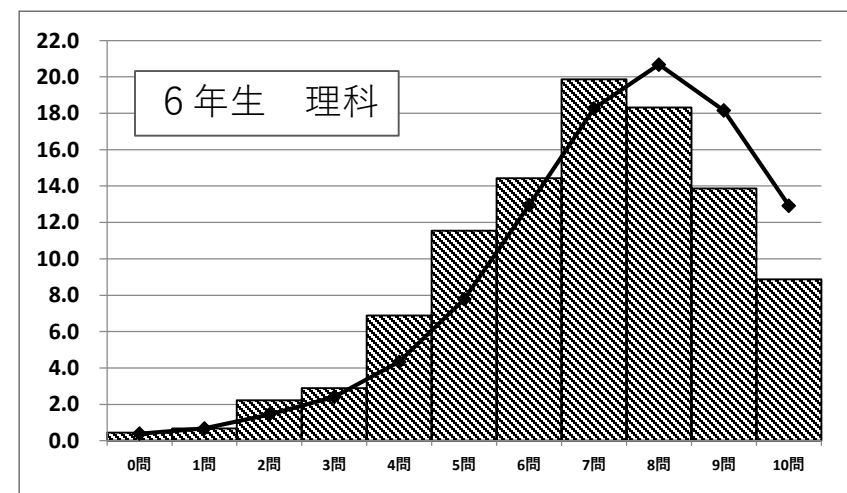
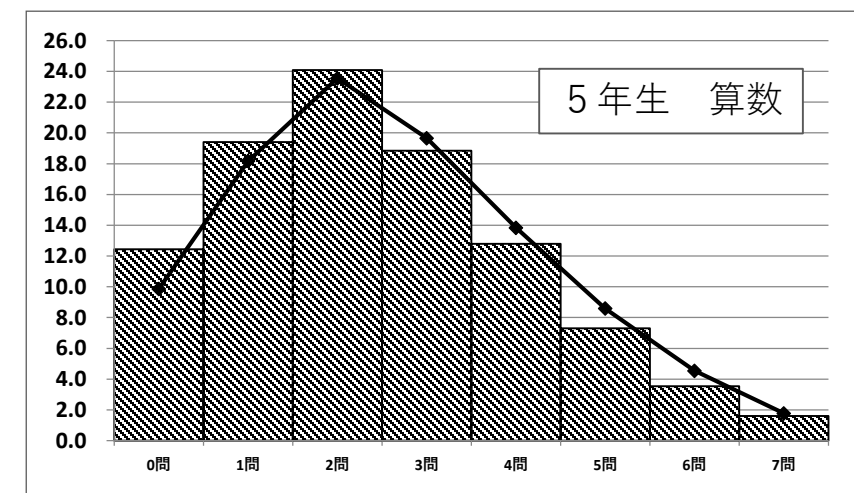
正答数分布グラフ(横:正答数、縦:割合)



【5年生国語】助詞を正しく使うことはできているが、ローマ字や故事成語といった言葉の知識について課題が見られた。
【5年生算数】割り算を使う問題の場面を理解して式を立て、商を求めることはできているが、正三角形と様々な四角形の性質を理解し、正三角形を組み合わせても現れない四角形とその理由を答える問いに大きな課題が見られた。
【5・6年生理科】5・6年共通の問題で、閉じ込められた空気の性質の問題についてはできているが、電池のつなぎ方に関する用語とその特徴を正しく理解することに課題が見られた。



【わくわく問題(教科横断型問題)】
「2025年の大阪・関西万博を題材に、来阪する人への案内用に、ピクトグラムを考えて、相手に分かりやすく伝えるためにどんな工夫をしたのかを表現する問題」では、正答率が8割でした。このことから、自由な発想で自分の考えや思いを書く力が概ね定着していることがわかる。
一方、ロボット掃除機の観察をきっかけに、4つの資料から自分の考えの根拠になるものを選んで、身の回りや社会の問題を解決するためのロボットを考えて答える問題では、正答率が2割程度でした。このことから、複数の資料の情報を適切に取り、自分の考えに必要な情報を選んで考えを述べることに課題があることがわかる。

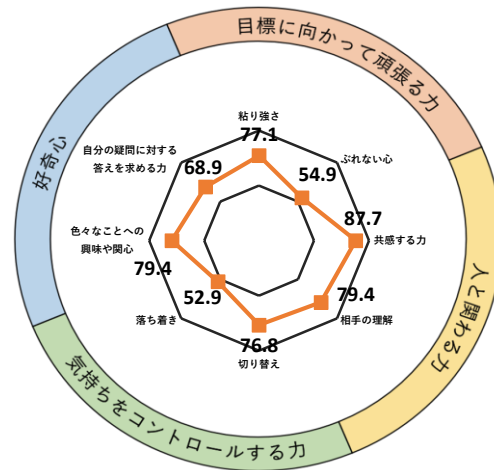


日頃から、テレビや新聞でニュースに触れる機会を持ち、その情報が何を伝えようとしているかを意識することでも、資料等を適切に取り取る力が養われます。まずは、好きなことからかまいませんので、ご家庭で、子どもが「気になるな」と思ったことについて話をしたり、一緒に調べたりして興味や関心を広げる働きかけをお願いします。

未来に向かう力と好奇心について

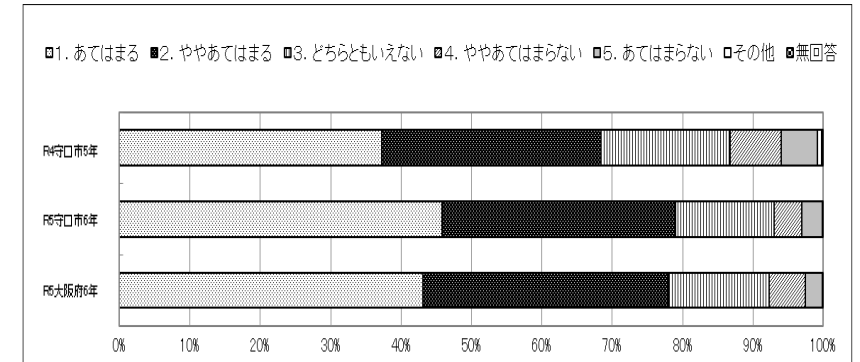
子どもの将来には、テスト等で測ることのできる「学力」の他に、非認知能力が大きく関わっています。大阪府では、これからの予測困難な社会を生き抜くために必要な、「①目標に向かって頑張る力」「②気持ちをコントロールする力」「③人と関わる力」の3つを「未来に向かう力」と定義しています。

アンケート全体を通して、「いろいろなことへの興味や関心」が高いことがわかります。また、「共感する力」や「相手の理解」を図る質問でも肯定的回答が多く、人と関わる力も高いと考えられます。守口の子どもたちは、広い視野でいろいろなことにチャレンジでき、人とのかかわりを大切にする「強く優しい心」を持っていると言えます。

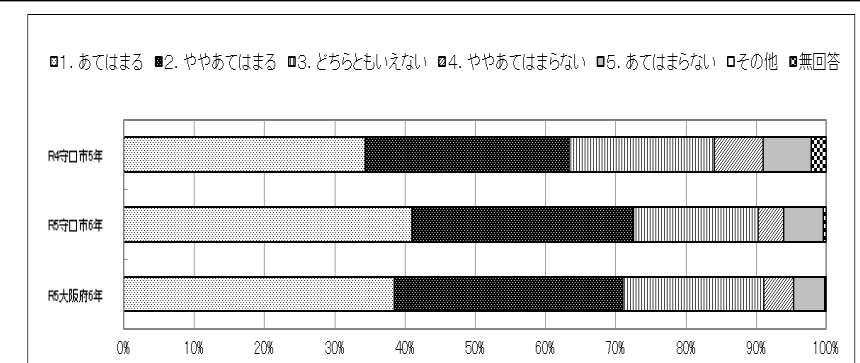


今年度の6年生の昨年度(5年生時)との比較から〔同一集団〕

休み時間と授業時間との気持ちの切りかえができる



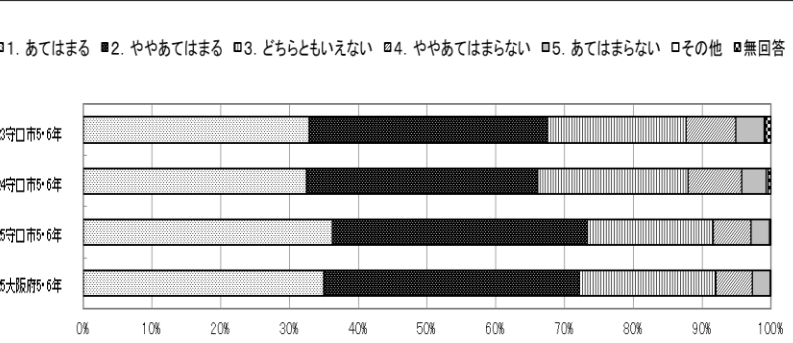
課題や問題に取り組んでいる途中で、うまくいかなかったときは、やり方を変えている



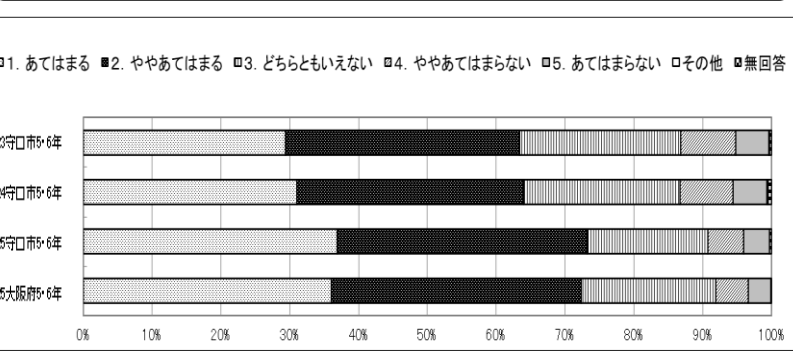
児童アンケート(5・6年生)令和3年度からの経年比較

〔肯定的回答の割合が増加した項目〕

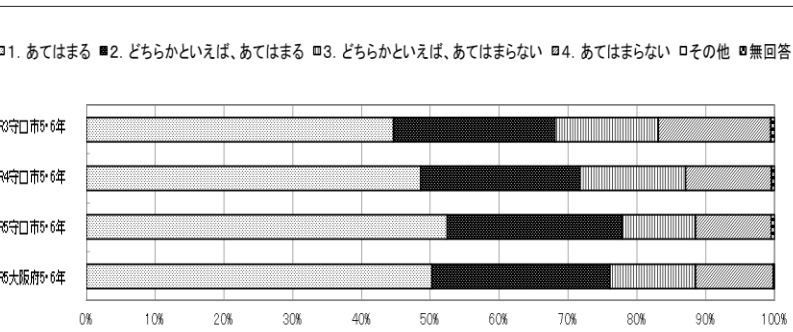
何事も一生けんめい努力する



人と対立しても、相手の考えや気持ちを理解しようと努力する

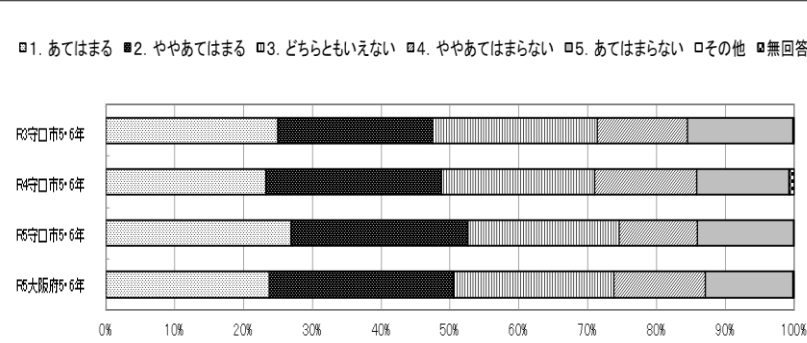


あなたは、困ったときに相談できる先生がいる

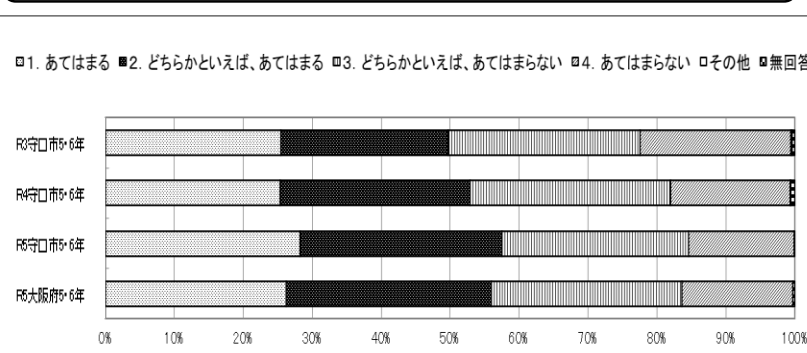


〔より一層の成長をめざす項目〕

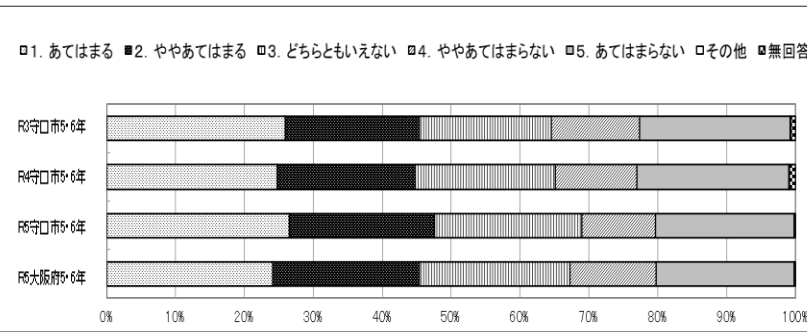
イライラを感じるときは、考え方を改めて落ち着いていられるようにする



自分の考えを積極的に発言する



自分でやりたい学習内容を考えて、家で勉強をしている(宿題は除く)



〈児童アンケートから〉

- ◆ 「何事も一生けんめい努力する」という割合がこの3年間で最も増えました。目標に向かって頑張る力は、学習に前向きに取り組む力の基盤となり、難しいことにもチャレンジすることを後押しします。また、「人と対立しても、相手の考えや気持ちを理解しようと努力する」割合も増加傾向にあり、共感する力や相手を理解する力など、人とかかわる力が向上し、話し合い等の活動を通して自分の考えを広げたり、深めたりすることが期待できます。主体的・対話的で深い学びを意識した学習の成果と言えます。加えて、「あなたは、困ったときに相談できる先生がいる」割合は8割近くに達し、教員との信頼関係が築かれていると言えます。
- ◆ 一方で、「イライラを感じるときは、考え方を改めて落ち着いていられるようにする」と答えた割合が増加したものの、半数近くが気持ちのコントロールが難しいと感じています。
- ◆ 今年度の6年生の回答を昨年度の5年生だった時と比べると、「休み時間と授業時間との気持ちの切りかえができる」、「課題や問題に取り組んでいる途中で、うまくいかなかったときは、やり方を変えている」という回答の割合が増加しており、学習に対する意識や学ぶ姿勢が身につけてきていると考えられます。

学習に前向きに取組み、自分に必要な学習を計画的に進めることができれば、学ぶ意欲が持て、学ぶ意味を実感できます。まずはご家庭で、授業で学んだことを話す(=アウトプット)ことから始めてみてください。積極的に学ぶ学習態度を身につけ、学ぶことの楽しさを感じられる子どもたちを育てましょう。